

国民保養温泉地計画書(案)の概要

温泉地名	所在地	温泉泉質及び湧出量について		計画の基本方針	温泉地の環境等に関する条件			
		利用源泉について	利用する温泉の湧出量について		自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する計画について	医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等について	温泉資源の保護、温泉の衛生管理、温泉の公共的利用の増進並びに高齢者及び障害者等への配慮に関する取組について	災害防止に関する取組について
四万温泉	群馬県中之条町	アルカリ性単純温泉、カルシウム・ナトリウム硫酸塩温泉、ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩温泉	1人あたり3.9L/分 総湧出量/1日当たりの延べ利用者数	古くから湯治場として栄えてきた温泉地であり、豊かな自然環境と温泉の効用から保養や療養を目的とした宿泊客が多く訪れている。今後、湯治場としての歴史や文化を大切にしながら、周囲の自然と調和し、保養・休養・療養の場として昔ながらの雰囲気漂う温泉地を目指していく。	・上信越高原国立公園内にあり、標高700mの高地は夏涼しく清流自然の豊かな地域である。 ・永延3年(西暦989年)頃に源頼光の家臣・碓氷貞光が発見したという日向見地区が発祥の地であり、明治時代には湯治場として賑わい昭和29年国民保養温泉地指定第1号となっている。 ・古くから伝わる鳥追い祭り、どんど焼きなどの伝統行事が長い歴史の中でも受け継がれている。	・温泉療法医の方が四万へき地診療所において、随時に温泉利用に関する相談に対応。また、旅館や温泉協会などにおいて、随時に温泉療養相談を実施。 ・温泉アドバイザーが日帰り入浴施設及び旅館・ホテル等の宿泊施設において、健康増進及び疾病予防のための温泉利用を安全かつ適切に実施できるよう指導している。 ・今後、群馬県知事の認定を受けた上級温泉アドバイザーの取得を目指す(10名程度)	・42本の源泉が36軒の旅館と5箇所の日帰り入浴施設に利用されている。温度は26.5℃～79.9℃。 ・ほとんどの源泉が自然湧出もしくは掘削自噴 ・四万温泉に所在する源泉の湧出・利用状況、及び泉質の状況について、経年のデータを蓄積し一般社団法人群馬県温泉協会が総合的な観測を実施(全体観測 年1回26箇所、定期観測 年6回:13箇所、年1回:4箇所) 湧出量、泉温に加えて、電気伝導度やpH等を測定。 ・外国人観光客への3ヶ国語表示(英語・中国語・日本語)の案内板の設置を推進する。	これまで大きな災害は無いが、温泉施設利用者等に対して避難場所を記載したハザードマップの掲示、災害発生時マニュアル確立及び避難誘導訓練の実施を行う。
肘折温泉郷	山形県大蔵村	ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉、ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉、単純二酸化炭素冷鉱泉等	1人あたり8.84L/分 総湧出量/1日当たりの延べ利用者数	・古くから湯治場として栄えてきた温泉地であり、今でも、保養や療養を目的とした宿泊客が来湯。 ・温泉療法医等による温泉療養相談事業の充実と、スパリエ・インストラクター(温泉指南役)制度を活用した温泉入浴指南事業を各旅館でも実施できるように体制を整備 ・温泉郷全体の景観に配慮しながら、健康づくりの拠点としての散策路や休憩スポットの整備	・月山の裾野に位置し、約1万年前の火山活動によって形成された約2kmのカルデラの中にあり、東端に位置する肘折温泉、中心に位置する黄金温泉、最奥部にある石抱温泉とともに肘折温泉郷を形成。 ・肘折温泉は大同年間(807年)の開湯とされ、開湯以来千二百余年の歴史を有している。 ・古くは月山の主要な登拝口として山岳信仰とともに栄え、近年は近郷近在の農家の方々が農閑期に骨休めをする湯治場として発展。 ・本地域は全国有数の豪雪地帯であり、4メートルに及ぶ積雪が観測される。しかしながら、最近は、除雪機械の性能も良くなり、厳冬期でも安全に肘折温泉郷を訪れることが可能。	・温泉療法医による日帰り入浴施設での温泉療養相談を実施。 ・本地域で所定の講座を受講したスパリエ・インストラクター(温泉指南役)による入浴指導等を実施。 ・今後は各旅館で複数人体制でスパリエ・インストラクターを配置できるよう体制整備を図る。	・肘折温泉郷は、3つの温泉地からなり、現在、20の源泉が浴用として使用されているほか、一部飲用としても利用。温度は8℃～86℃。 ・高温でスケールが付きやすいため、毎月～年数回程度井戸を清掃。 ・肘折温泉すべての源泉について温度、湧出量、水位等の調査を毎月、温泉組合等にて計測。 ・成15年3月に肘折温泉郷として「安全な温泉推進会議」を立ち上げ、温泉の衛生管理を徹底し、将来に亘り肘折温泉郷の衛生的で安全な温泉を提供するといった決意表明を実施。 ・大学と連携したイベント、雪を活かしたイベント等を実施。 ・今後、温泉組合と大蔵村にて台湾・香港などからの観光客受け入れをさらに推進し、湯治、保養の体験の場を提供する。	・昭和31年に数戸の家屋が流出する河川氾濫が発生した。さらに、平成24年4月には融雪に伴う地すべり性の土砂崩落により、肘折温泉郷に通じる県道崩落の災害が発生した(復旧済) ・上記を踏まえ、災害防止計画等の未然防止策を策定。
豊富温泉	北海道豊富町	油分を含むナトリウム-塩化物泉	1人あたり0.41L/分 総湧出量/1日当たりの延べ利用者数	・石油成分に含まれるタール成分には、肌の炎症を抑える効用があるといわれることから、アトピーや乾癬等、皮膚病への効用があることで注目を集めており、北海道内外から多くの方が来湯。 ・温泉と共に天然ガス(メタンガス)が噴出しており、暖房に使用しているものの有効活用できていない。そのため、今後有効活用を目指す	・海岸側のサロベツ川流域には、豊富町・幌延町・稚内市の3市町にまたがる24,000haにも及ぶ広大な高層湿原・サロベツ原野「利尻・礼文・サロベツ国立公園」が広がる。 ・夏季の最も暑い期間でも平均最高気温が25℃以下と涼しく、過ごしやすい気候と広大な放牧地により、品質の良い牛乳を生み出している。 ・今後、廃業したホテルを町が買い取り、長期滞在湯治客及び豊富町への移住を検討している方への宿泊施設として改修するなど滞在型の温泉地を目指す。	・豊富町国保病院にて、湯治客の体調不良等に対応。 ・湯治客の体調相談、健康増進(月2回の体操、ヨガ教室等)及び疾病予防等のために、保健師(兼温泉入浴指導員兼温泉利用指導者)を週5日間配置。また、民間旅館に1名の温泉入浴指導員を配置。 ・今後とも保健師又は指導員の増員を目指す。	・現在、4源泉が各ホテル・旅館等に利用されている。温度は20℃～43℃。 ・温泉地区内に豊富鉱山事務所を設置。職員2名を常駐させ、温度・湧出量・水位、圧力の現地観測を毎日実施し、計測結果を資源管理に利用している。(なお一部源泉は、自動観測計による観測を行っている。) ・今後は湧出量が過剰にならないように町主導で管理を実施し資源保護に努める。 ・天然ガスについて地区内のホテル及び旅館等の暖房用・厨房用に利用されているが、有効活用を検討。	・大規模な河川氾濫、地滑り等は発生していない。 ・防災計画に基づき行動できうようにしている。